

## 【報告】『第7回 のみ SDGs 円卓会議』

2月13日(金)、辰口福社会館 305 会議室にて「第7回のみ SDGs 円卓会議」を開催しました。

本会議では、これまで行ってきた能美市の SDGs の取り組み報告と第3期 SDGs 未来都市計画案の報告を行ったのち、これから30年、50年と発展していく持続可能な能美市をつくっていくために、委員の皆さまから地域の状況や課題等のご意見を頂戴しました。

### 市長あいさつ

開会に先立ち、井出市長からは、「能美市は市民力・地域力が高いまちであり、SDGs の取り組みを進めていく素地のある自治体ではないかと思っている。昨年能美市は誕生20周年を迎え、30年、50年と続く能美市を目指していこうという思いの中、能美市が先頭になって取り組んでいくのに「持続可能、サステナブル」というテーマはふさわしいと考えている。市民全員が「サステナブル」ということに対して取り組んでいけるよう、委員の皆さまからさまざまなご意見をいただきたい」とご挨拶申し上げました。



## 座長あいさつ

座長には能美市がSDGsの推進に取り組み始めたときから助言や支援をいただいております。新委員に務めていただくこととなりました。

新座長は、能美市民の「お人柄」が地域資源として重要なものであることを述べられたうえで、JAISTでも教鞭をとられていらっしゃった野中郁次郎先生が提唱した「SECI（セキ）モデル」（知識創造モデル）を例に、この会議では個人の暗黙知（＝個人が持つ知識や感覚）を出し合い、形式知（＝言語化して共有できる状態の知識）にしていきながら、みんなで新たな知識創造をしていきたいことをお伝えいただきました。

## これまでの能美市の取り組み報告・第3期SDGs未来都市計画案の報告

続いて、これまで能美市が行ってきたSDGsの取り組みについてと、策定を進めている第3期SDGs未来都市計画案の報告について事務局からご説明しました。

## 地域の現状や課題等について

いま、社会を取り巻く状況、能美市を取り巻く状況は年々変わってきています。今回の会議では、これから30年、50年と発展していく持続可能な能美市をつくっていくために、改めて現在の地域の状況や課題を社会面を中心に委員の皆さまからご意見を頂戴しました。



委員のみなさまからは下記のようなご意見が寄せられました。

- ・地域の行事への参加者が固定化されているのが課題。また、組織の弱体化が見受けられる。
- ・「情報」が大事だと思っている。町会の活動やSDGsなどの取り組みの様子をどう届けていくかが課題である。
- ・小中学生は能美市が好きで、能美市にいたいという思いが強いが、高校生、大学生になったときに、「地域で働く・暮らす」具体的なイメージが描けず、市外流出につながっているように感じる。
- ・社会・経済・環境をつなぐハブ機能が不足しており、その役割を我々の人間力で繋いでいかなければならない。
- ・自分は移住してきて、能美市の人とのつながり、温かさを感じている。ただ、暮らしてみても初めてわかることもあり、移住先のその後の暮らしが想像できていないと躓いてしまう人もいると思われ、そうすると移住から定住につながらないのではないか。
- ・能美市は外国人比率が県内で一番高いが、地域との交流が多いかというところではない。外国人にも能美市が好きな人はたくさんいて、能美市のために何か貢献したいという思いがあるが、活躍の場が多くないのが課題。
- ・自社では多くの外国人が働いているが、従業員同士のコミュニケーションの問題がある。能美市には外国人だけでなく、移住者など多様なバックグラウンドを持つ方が多く、いろいろな価値観を許容できる土壌づくりが持続可能な地域社会の実現にもつながっていく。
- ・人手不足と既存事業の縮小が一番の課題。能美市がほしい人財をどう育てていくかということが大切。変化を許容する人財を増やすとともに、JAISTなどの高等教育機関を活かしていければいいのではないか。
- ・環境を考えたときには、社会や経済も関わってくる。地域の子どもたちが能美市の未来をどのように考えているか、子どもを巻き込んで考えていけるといい。

---

これからの能美市を見据え、改めて地域の現状と課題を皆さまと共有する良い機会となりました。

委員の皆さまからいただいたご意見を今後の取り組みに反映させながら、今年度も市民の皆さまとともに、進んでいきたいと思っております。